

SpecTaroscoPy ver. 6.4.7 User Manual

分子科学研究所 (Institute for Molecular Science) 中澤遼太郎 (Ryotaro Nakazawa) nakazawa@ims.ac.jp

- 本ツールを用いたデータを成果発表される際には、謝辞または共著としてクレジットを記載いただけますと幸いです。
- なお、Deconvolution, Second derivative 解析ご利用の際は、以下の文献がクレジットになります。 R. Nakazawa, H. Sato, and H. Yoshida, "Peak separation methods for inverse photoelectron spectra: Comparing second derivative, curve fitting, and deconvolution analyses", arXiv (2025).

arXiv DOI: https://doi.org/10.48550/arXiv.2509.21246

(現在、国際誌に投稿中)

初期設定

(1) Pythonのインストールしてください。

なお、Pythonはpathを通す必要があるそうです。ネットにpathの通し方の記事がいくつかあるので参考にしてください。 Path通していない人は、AnacondaやPython公式ホームページからPythonをインストールし直すのが確実だと思います。

【中澤の使用環境】私はAnacondaでPythonをインストール・パスを通しました。 VS codeで*.py fileを実行しています。 Pythonのバージョンは3.12.7 です。

(2) 必要なモジュールのインポートをします。 試しにSpecTaroscoPy_*//src//main.pyを実行し てみてください。

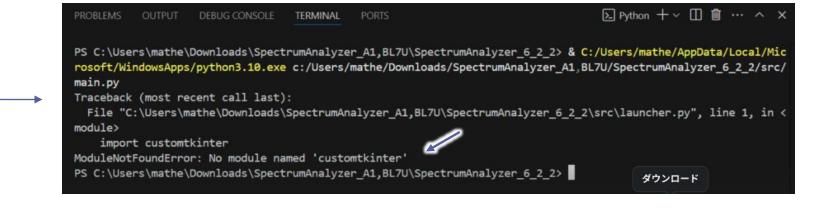
たいてい左のエラー (ModuleNotFoundError) が出ます。

PCのターミナルを開き、指示に従ってmodule をインストールしてください。

例えば右画面の場合、winではターミナルを開いて

pip install customtkinter

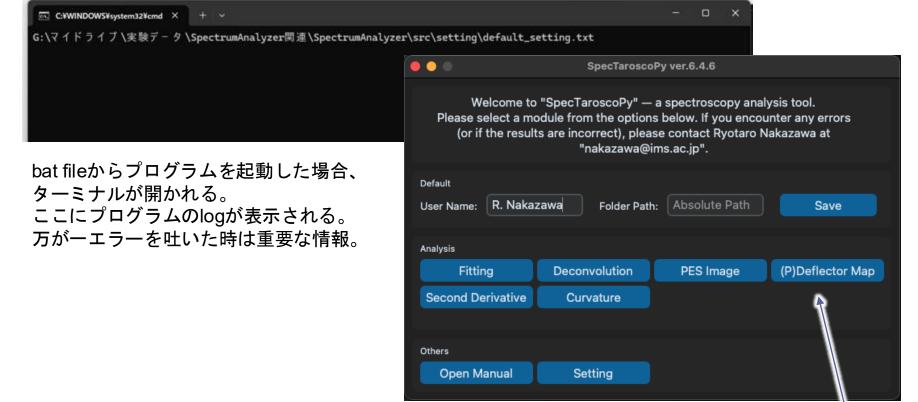
を実行します。Moduleのインストールの仕方も ネットにいくつも記事があるのでそれを参考に してください。



<	SpecTaroscoPy_6_4_3	∷≕≎			<u> </u>	0	⊙ ∨	· Q
	フォルダ	変更日				サイズ		種類
	Igor_macro	2025年	6月12日	23:29				フォルダ
	src	昨日 19:	:54					フォルダ
•	testdata	2025年	4月16日	19:51				フォルダ
	書類							
	ReadMe.txt	昨日 19:	:52				8 KB	標準テキス
	PDF書類							
	manual.pdf	昨日 15:	:00			4.	2 MB	PDF書類
	その他							
=	ARPESimage.bat	2025年	6月12日	22:51		51 <i>J</i>	ペイト	書類
=	curvature.bat	2025年	4月8日	13:12		49 /	ペイト	書類
=	deconvolution.bat	2025年	4月8日	13:12		53 <i>J</i>	ペイト	書類
==	fitting.bat	2025年	4月8日	13:12		47 <i>J</i>	ペイト	書類
=	luncher.bat	2025年	4月8日	13:12		47 J	ペイト	書類
=	second_derivative.bat	2025年	4月8日	13:12		57 <i>J</i>	ペイト	書類
ď	SpecTaroscoPy.bat	2025年	4月8日	13:12		44 /	ペイト	書類

< > src	∷≎ 	Ĉ	· Ø	⊕ •	Q
フォルダ	変更日		サイズ		種類
pycache	今日 15:35				フォルタ
archive	昨日 19:54				フォルタ
img	昨日 18:05				フォルタ
RyoPy	2025年5月2日 18:34				フォル:
setting デベロッパ	昨日 19:52				フォル
arpes_image.py	今日 14:53		1	55 KB	Pythor
curvature.py	一昨日 18:10			7 KB	Pythor
deconvolution.py	昨日 22:39			57 KB	Pythor
🦸 fitting.py	昨日 22:39			47 KB	Pythor
Frame.py	2025年6月12日 21:34			25 KB	Pythor
Image.py	2025年4月8日13:12		160	バイト	Pythor
launcher.py	今日 15:50			13 KB	Pythor
💰 main.py	昨日 22:38		231	パイト	Pythor
	昨日 22:57			47 KB	Pythor
PlotControl.py	2025年6月12日 19:58			25 KB	Pythor
second_derivative.py	昨日 22:38			50 KB	Pythor
setting.py	一昨日 19:50			9 KB	Pythor
Spectrum.py	昨日 22:38			55 KB	Pythor

SpecTaroscoPy_* フォルダの SpecTaroscoPy.batを押す (Windows限定。左画面) OR SpecTaroscoPy_*\\src\\main.pyを押す (右画面) とlauncherが立ち上がります。



Defaultは記入しておくと便利(しなくてもよい)。

- (i) 解析者の名前、
- (ii) ファイル読み込み時の最初のフォルダのpath を指定する。(ii) は解析ファイルが入っている親フォルダを指定すると便利かも。

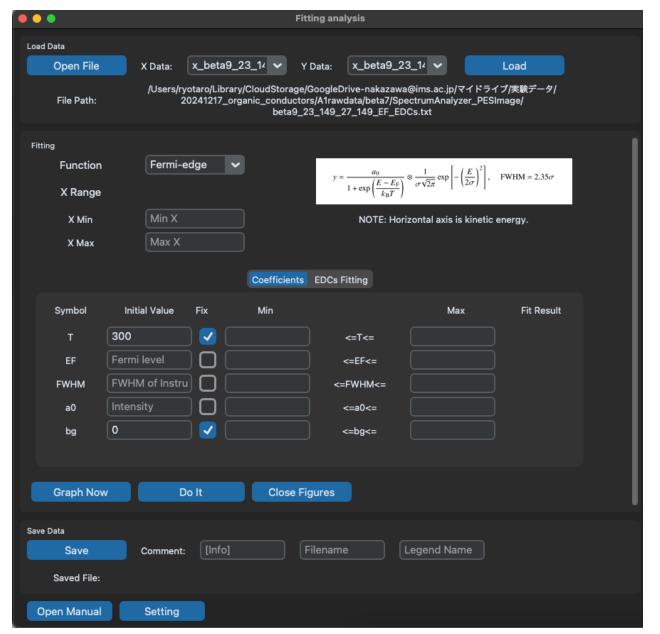
Analysisは解析ごとにボタンに なっている。行いたい解析のボ タンを押す。

Othersにはマニュアル(このパワーポイント)を 開くボタン、設定を開くボタンがある。

この画面に限らず、(D)は開発中という意味。 "(D)"を含むボタンを押しても何も起きません。

解析GUI画面

どの解析GUIもざっくりこんな雰囲気



データを読み込むFrame (Load Data Frame)

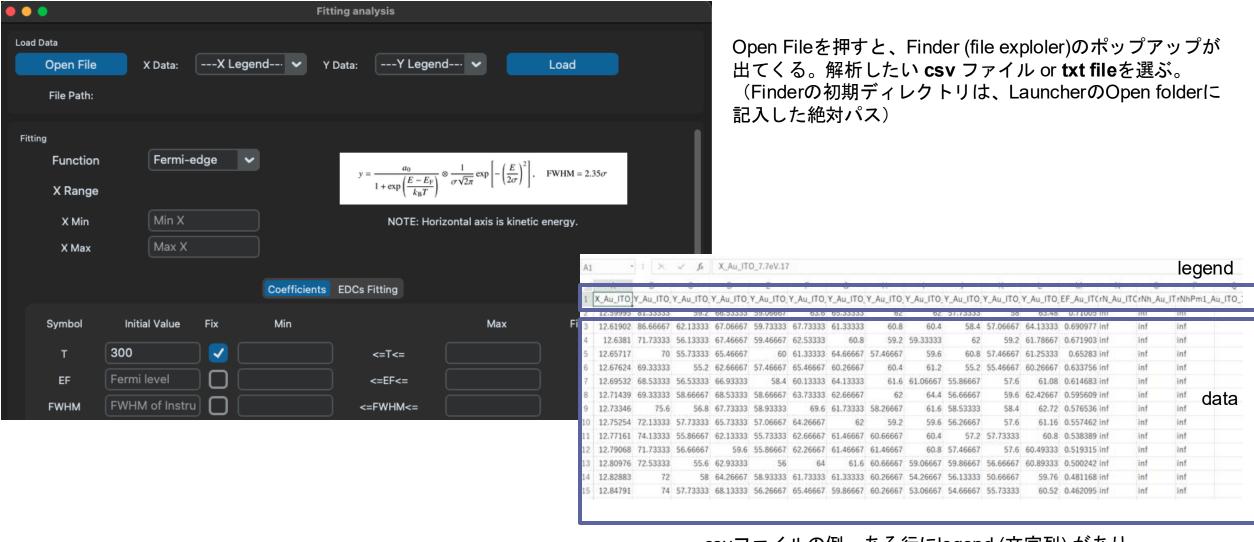
解析するFrame

解析データを保存するFrame (Save Data Frame)

その他。設定を開く・manual (このfile) を開くボタン

Load Data (Fitting analysisを例に)

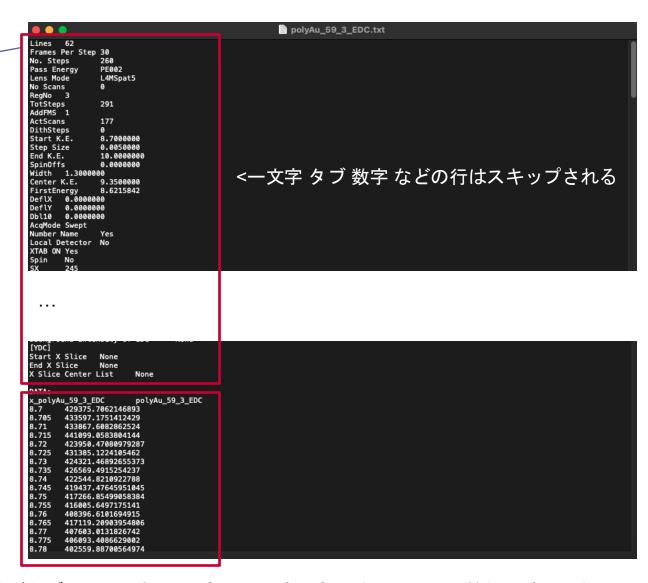
データの読み込みはFitting, deconvolutionで共通



csvファイルの例。ある行にlegend (文字列) があり、 その下に数値データがあれば良い。 最低(x, v)の2列は必要。

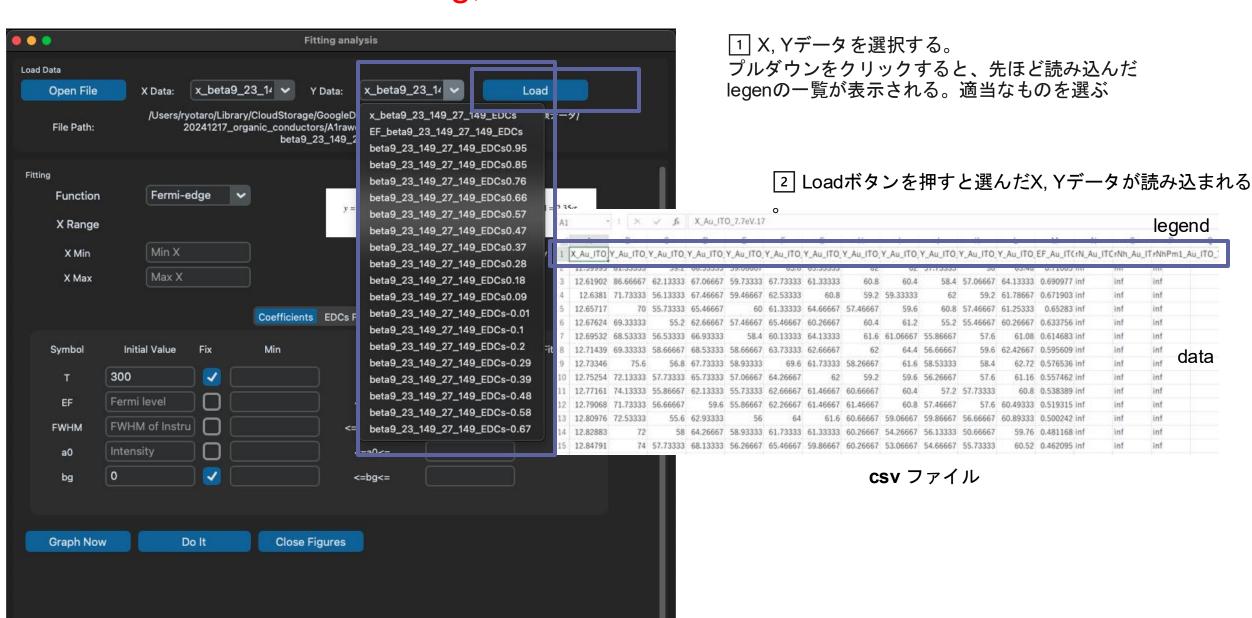
Fitting analysis Load Data Open File ---X Label--- 🗸 ---Y Label--- 🗸 Load File Path: Fitting Function Fermi-edge $= \frac{a_0}{1 + \exp\left(\frac{E - E_F}{k_B T}\right)} \otimes \frac{1}{\sigma \sqrt{2\pi}} \exp\left[-\left(\frac{E}{2\sigma}\right)^2\right], \quad \text{FWHM} = 2.35\sigma$ Range Start: NOTE: Horizontal axis is kinetic energy. End: Coefficients EDCs Fitting

テキストfileの例



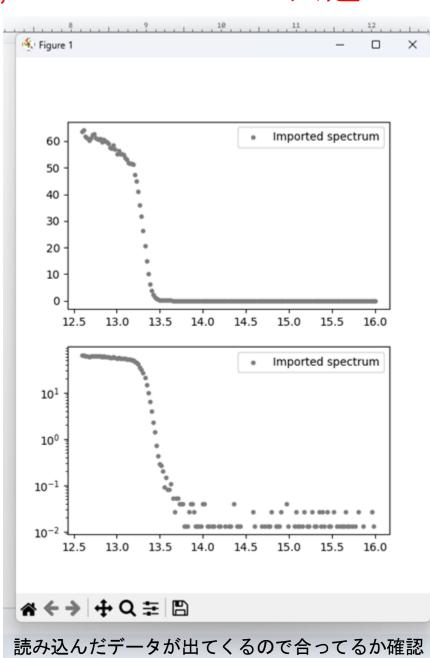
数字がタブで区切られた列が2列以上ある部分をdataとして検知・読み込む。 data直前の行をlegendとして読み込む。

データの読み込みはFitting, deconvolutionで共通

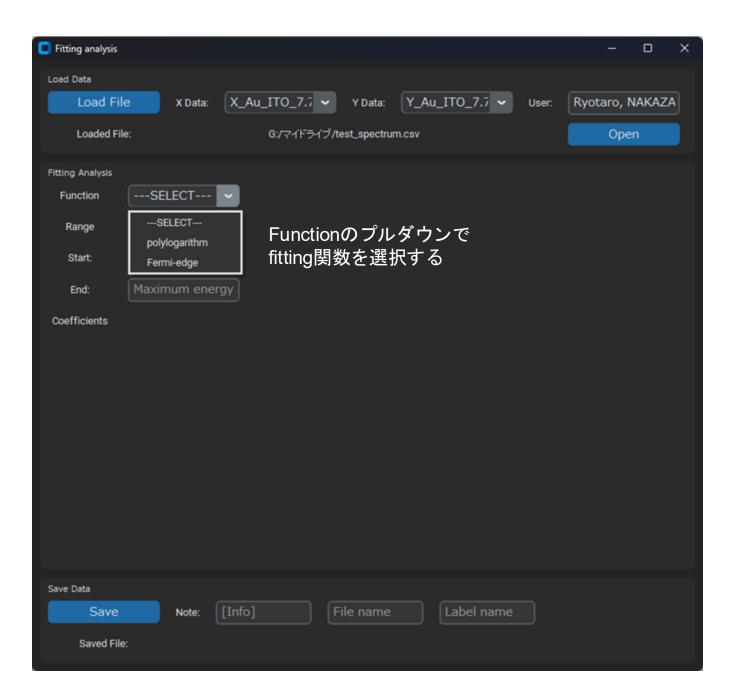


データの読み込みはFitting, deconvolutionで共通

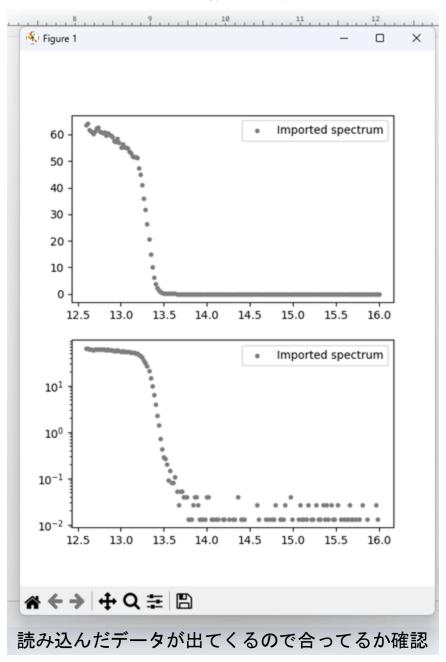
データの読み込み完了



Fitting Analysis



データの読み込み完了画面

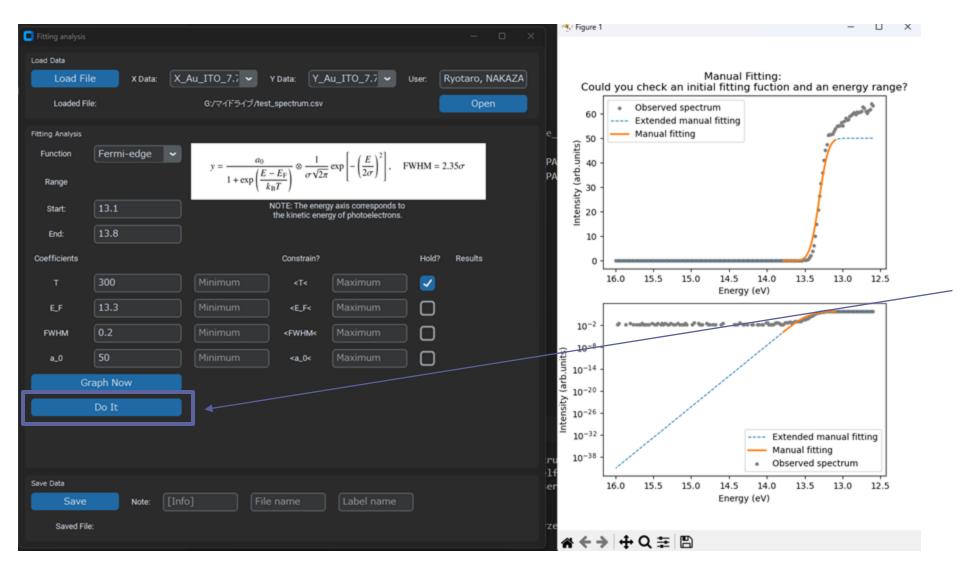


今回は "Fermi-edge" 関数を使用する ① fittingの条件を考える



関数の定義式 (※はconvolutionを示す)

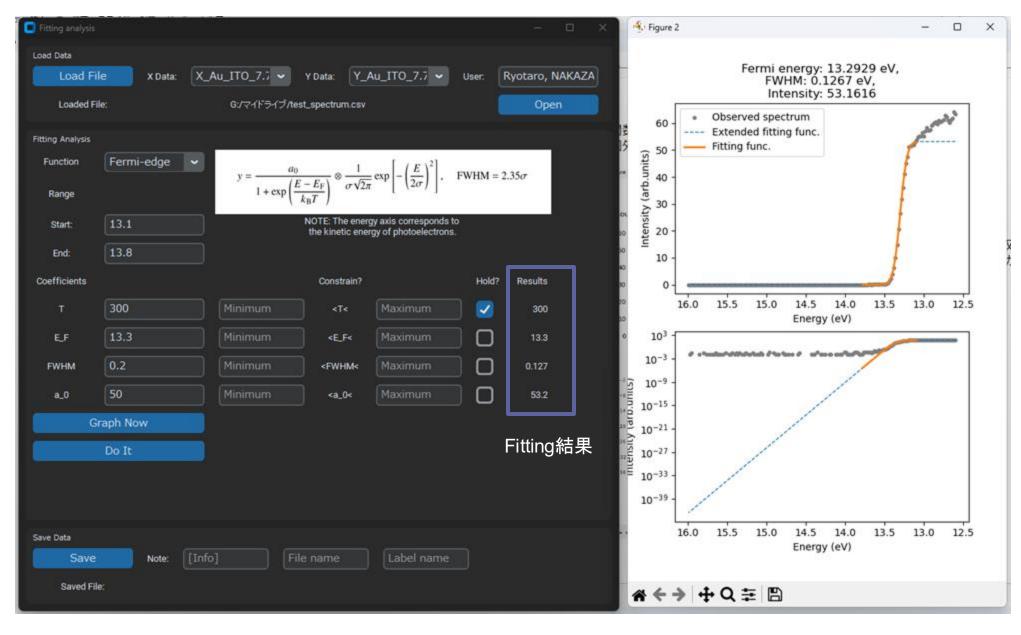
Graph Nowを押すと、初期値をfitting関数に代入した関数が表示される (オレンジ)。青点線はfitting関数をfitting範囲外に拡張したときのfitting関数



だいたい良さそうか(Fittingが収束 しそうか)、fitting範囲は適切か 確認する。

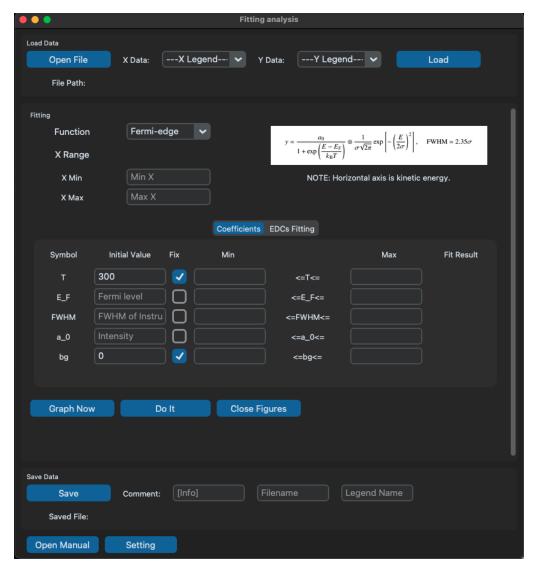
よければ Do lt ボタンを押して Fittingを実行。

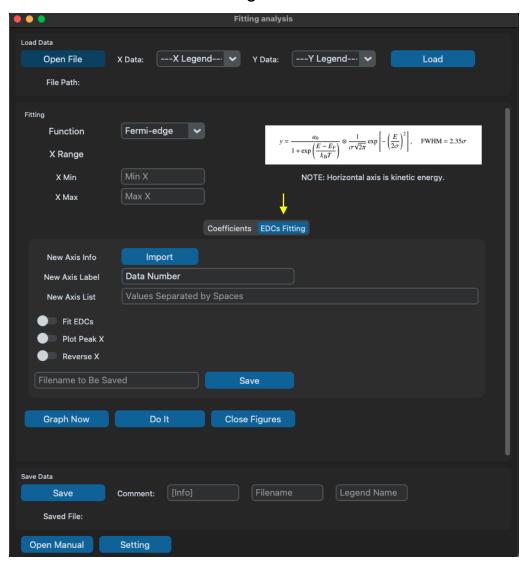
Fitting 実行



【Ver. 6.2.0以降】EDCs fitting analysis①

EDCs stackなど、ひとつのfileの中に複数のYデータがあり、一度にそれらすべてを同じ関数でfittingしたいときに使用する。





EDCs fittingを押し、画面をcoefficientsから切り替える

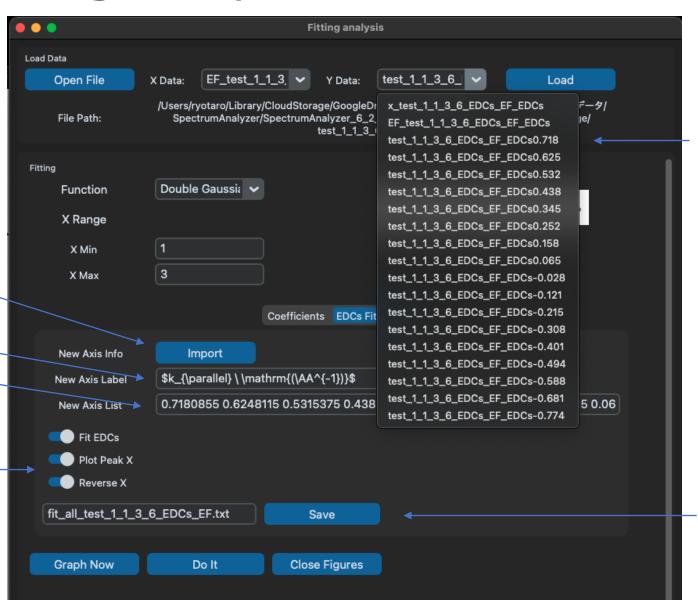
EDCs fitting analysis²

GUIの説明

Importボタンを押すと Open Fileで開いた fileから

- ラベル名
- EDCsを切り出したYの リスト (space区切り) をインポートする。 これらはインポートせず 手打ちしても良い。

Fit EDCsをONにする。 Gaussian funcitonのとき、ピ ークエネルギーをプロットし たいとき、ピークプロットの Y軸の向きを反転させたい場 合はこれらもONにする。



一番上のEDCを選択する。 Doitを押すと、 そこから下のLegendのYデータに 対して順々にFittingをおこなう。

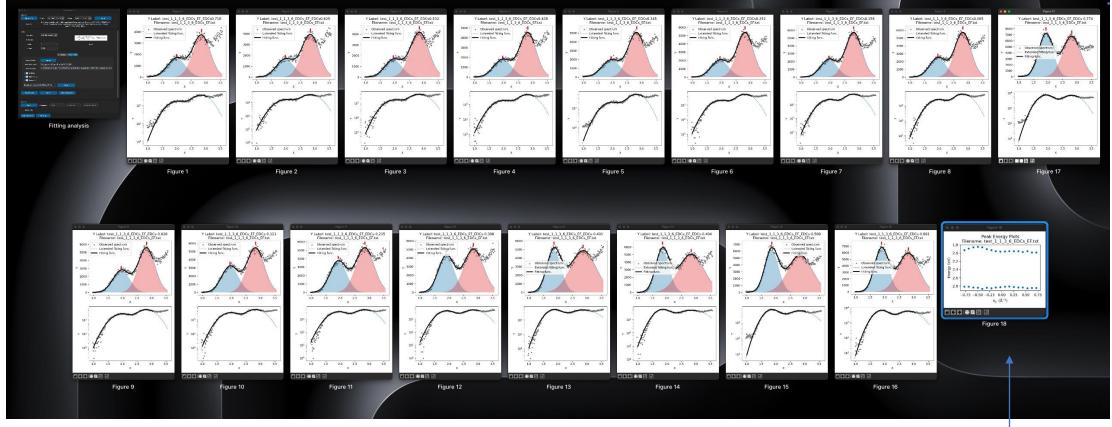
Save buttonで結果を保存。 右のfilenameで保存される。

GUI一番下のSave Data Frame (左 図では見切れている) の"Save" buttonは最後のスペクトルをfitting したデータだけが保存されるので 注意。

Do Itボタンで実行

EDCs Fitting Analysis³

出力画面

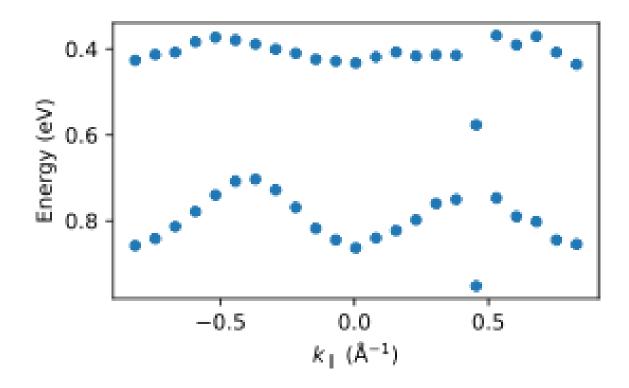


最初に選択したYデータ (前項) より下のすべてのYデータに対してfittingを行い、fitting結果がすべて表示される。 Gaussian functionを選択したときは、得られたピークエネルギーを別グラフでプロットことも可能(*)。 プロットしたい場合、GUIの"Plot Peak X" スイッチをONにする。

この連続fittingプログラムのアルゴリズムは、

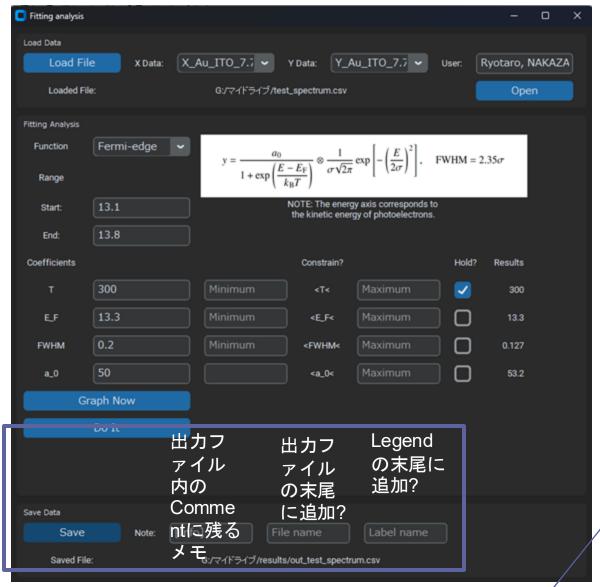
- ① Load Data Frameで選択されたY Data (Combo box) に対してfittingを行い、fitting結果を保存。
- ② DataImportのLegendを一つ下に再設定してYdata読み込み。 ①で得たfitting paramsをinitial valuesに再設定する。 ※ Paramsの制限 (Min, Max, Fix) やFitting範囲 (X Min, X Max) の設定値は引き継ぐ。
- Y DataのComboboxのLegendが一番下に行くまで(1)(2)を繰り返す。

前項Figure (*) について



横軸のlabelと数値データはGUIでImportした文字列、リストを取得している。 リストの要素数とFittingされるspectra数が一致しない場合、横軸はデータ数(1, 2, 3, ,,,n)・ラベル名はData Numberになる。 Save data

データを保存する。Saveボタンを押す



Saveを押すと結果がresultsフォルダに保存される。保存されたファイルの絶対パスが表示される



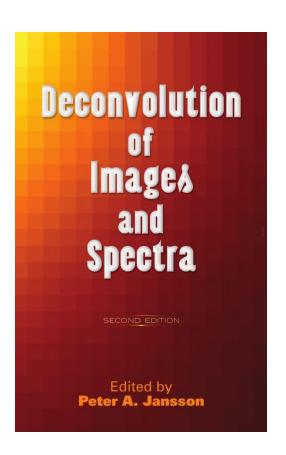
出力ファイルにメモを書いた例。出力ファイルに"メモが書けるよ"が追記されている。

Deconvolution Analysis for improvement of energy resolution

Concept

Original function: **o**(**E**) Spread function (Instrumental "De" **Convolution** function): **s(E)** convolution $i(E) = \int o(\varepsilon)^* s(E-\varepsilon) d\varepsilon$ Broadening Image function (measured spectrum): *i(E)*

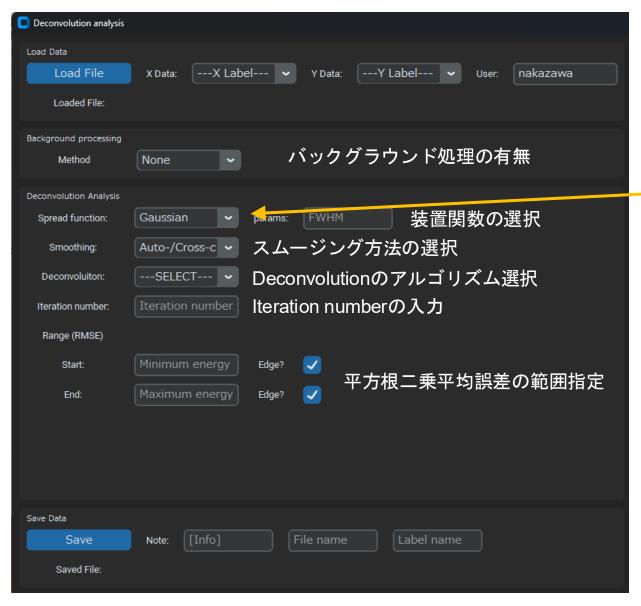
Iterative non-linear deconvolution



P. A. Jansson, *Deconvolution of Images and Spectra* (Courier Corporation, 2014).

Deconvolution analysis 1

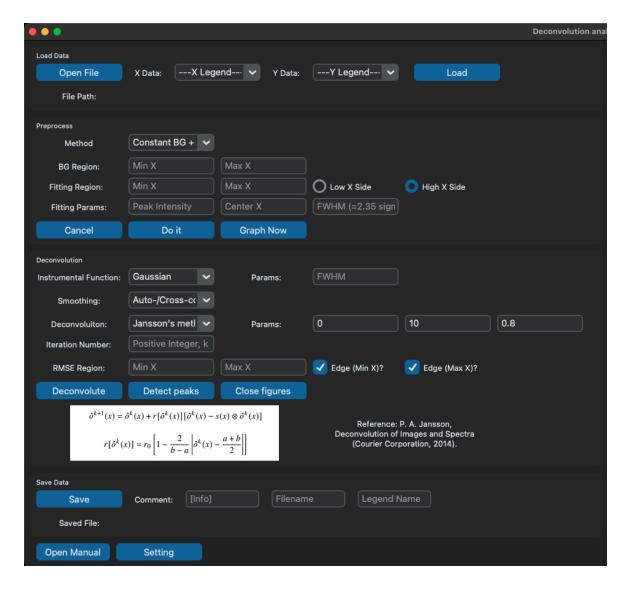
左画面



- Gaussianの場合、半値全幅を入力
- Importの場合、csvデータを選ぶ (Load Fileと同じ要領)。
- 2本の実測スペクトルからspread funcを求めたい場合も"Import"を 使用する (cf. Appendix-A)

デフォルトは全範囲

バックグラウンド処理1



Constant BG + Gaussianの場合

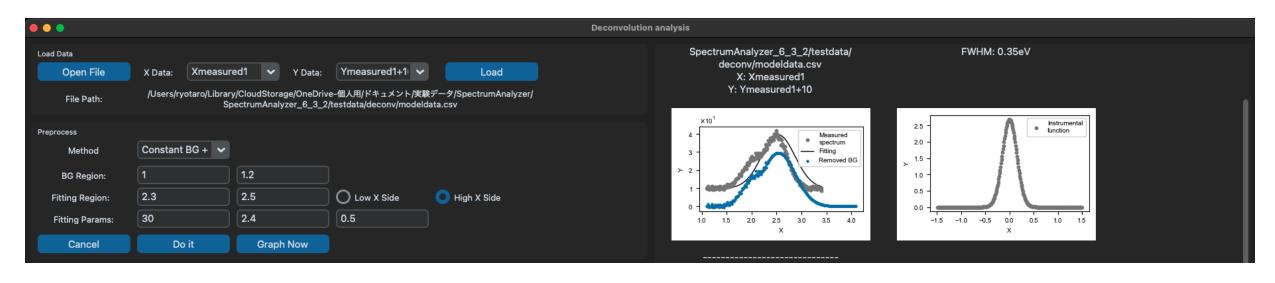
バックグラウンド領域を指定

Fitting領域を指定 (Low (High) X sideで置換する方を選ぶ)

Gaussainのfitting paramsの初期値 ピーク強度(Y)、ピークのエネルギー(X)、半値全幅

Graph nowで確認
Do it でgaussainでfitting → spectrum置換
CancelでGaussain置換取り消し。

バックグラウンド処理2



1-1.2 eVがバックグラウンド領域

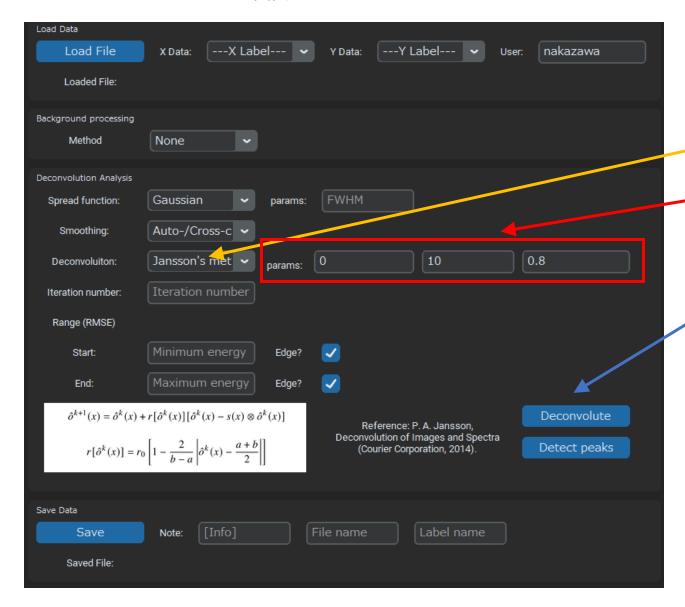
2.3-2.5 eVがfittingの領域, 高エネルギー側をfitting function (gaussain) で置換初期パラメータは強度 30, ピークエネルギー2.4 eV, 半値全幅0.5 eV でFittingを行った (Do it ボタン)。

Graph nowボタンで初期パラメータによるfitting関数のlineshape確認、Cancelでfittingの取り消しが出来ます。

黒線がfitting関数。 青が置換後の関数。 青spectrumをdeconvolutionすることになる。

Deconvolution analysis 2

左画面



Deconvolutionのアルゴリズムを選択する。

パラメータがある場合、Comb boxの横にparamsが出てくるので入力する。

下に原理式が出現し、パラメータの意味がわかる。

"Deconvolute", "Detect peaks"ボタンが出現。

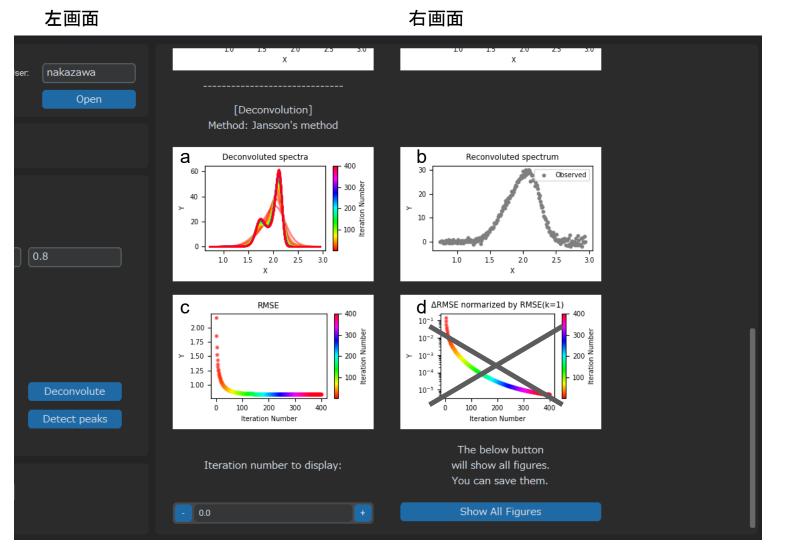
Deconvolute でdeconvolution実行。

Detect peaksはdeconvoluted spectraのピークエネルギーを調べる

Ver 6.*.*でClose Figuresボタンを追加しました。 出力した図をすべて消すことが出来ます。

Plot of results 1

Deconvolutionを行うと結果が右画面に表示される。装置関数や入力データが正しいか確認しよう。

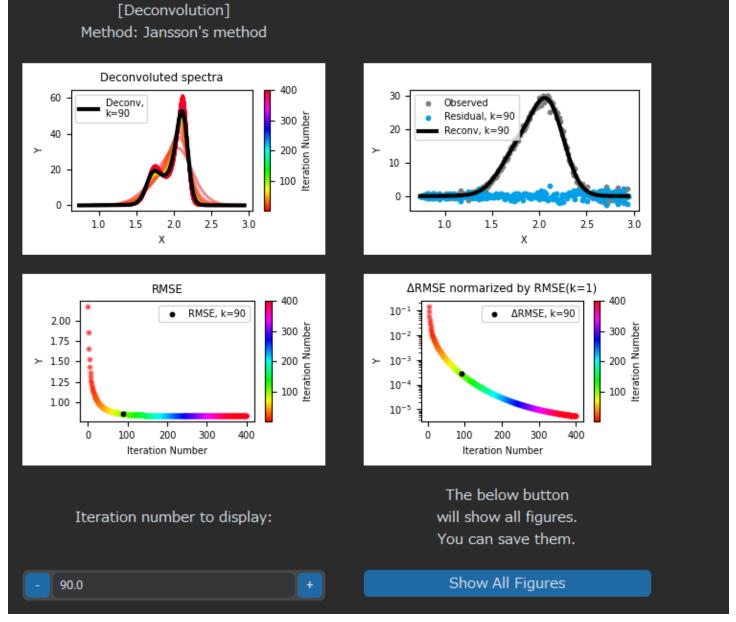


プロット画面を下にスクロールすると [Deconvolution] の欄がある。 左上から時計回りに

- a. Deconvolution spectra (iteration number, k,をレインボーで表現)
- b. Observed spectrum [とReconvoluted spectrum(次頁)]
- c. 平方根平均二条誤差 RMSE [observed spectrumと reconvoluted spectrumで計算。図bのRasual(次の ページ)の各点を二乗して平均した値。]
- d. RMSE@kとRMSE@k+1の差。 縦軸はRMSE@1で規格化されている。 Iteration numberを増やしたとき、deconvoluted spectrumがどれだけoriginal spectrumに近づいたか を示す。Iteration numberの打ち切りを決める目安 に使う。

Plot of results 2

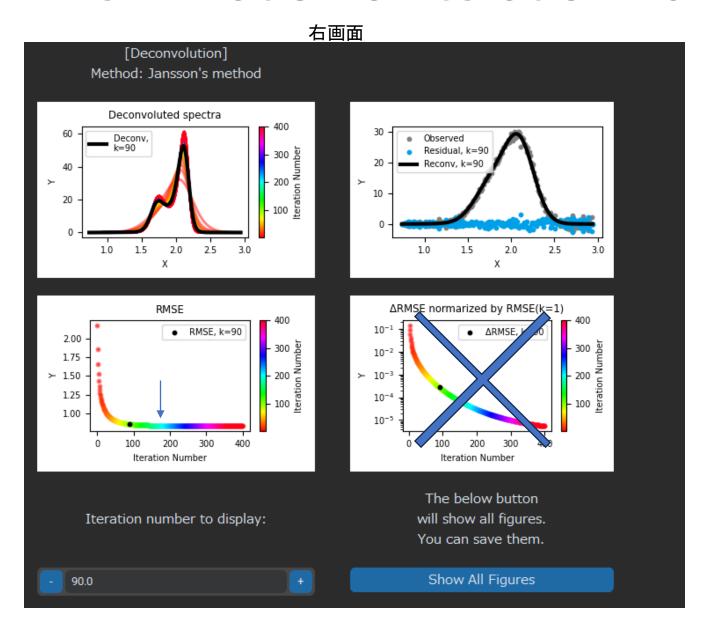




Iteration numberを入力して左右の"+", "-"を押すと、 そのiteration numberのときの結果が黒で表示される。 → 現在はスライダー

Show All Figures グラフが出力されるのでjpegで保存可能。

Termination of iteration number



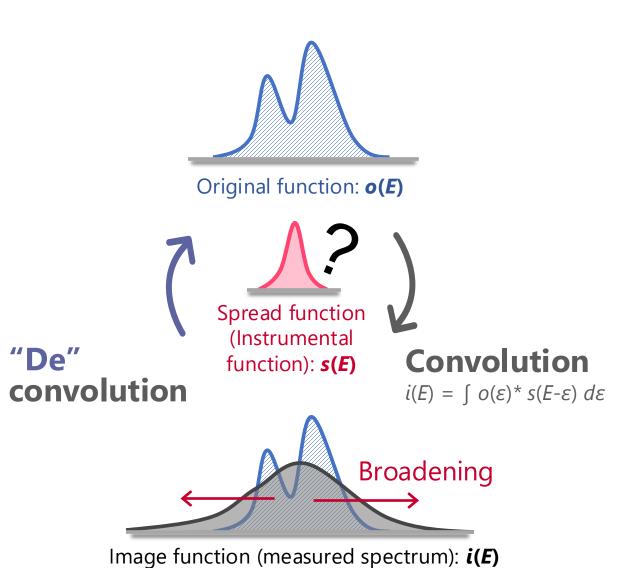
2024.05.27記載

ARMSEが10e-4程度になったiteration numberで
deconvolutionを打ち切ればよい。
左図の場合 k~130で打ち切れば良いだろう。
2025.01.04記載
RMSEが一定値に落ち着いたくらいでiterationを打ち切る

と良さそう。左図の場合は200手前くらい。

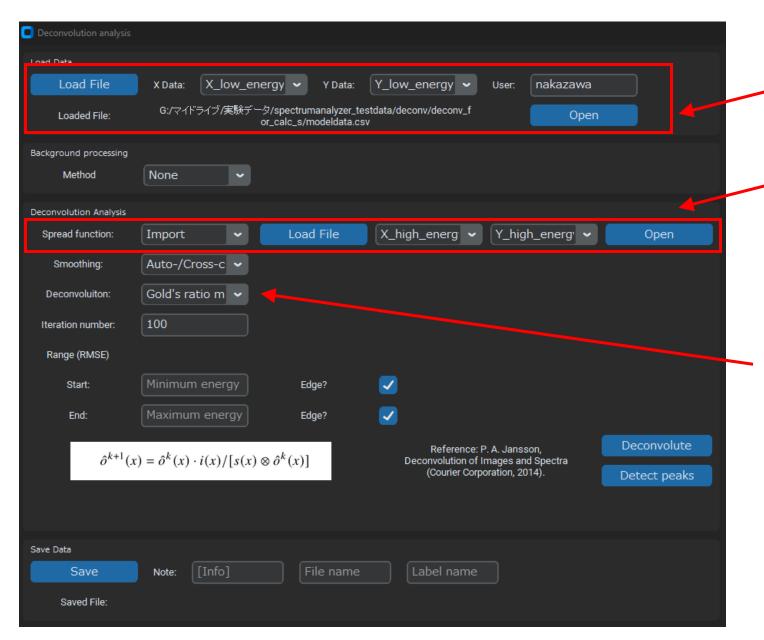
Deconvolution analysis for calculation of spread function

Concept



2本のスペクトルを使用し、 Spread functionを求める。

How to use the Deconvolution for instrumental function?

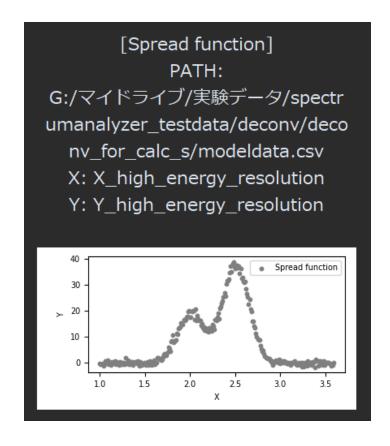


- 実測スペクトル (エネルギー分解能が悪い方) を読み込む

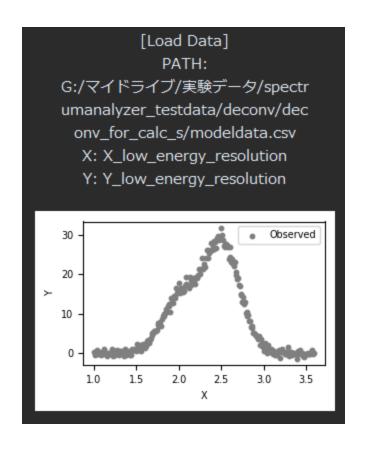
Spread function を"import"にし、 エネルギー分解能が良い方のスペクトル or Original spectrumを読み込む。

Jansson's method・Gold's ratio method両方で動作確認 済み (次ページの検証を参照)

Test



FWHM~0.35 eVの装置関数 = (Gaussian)

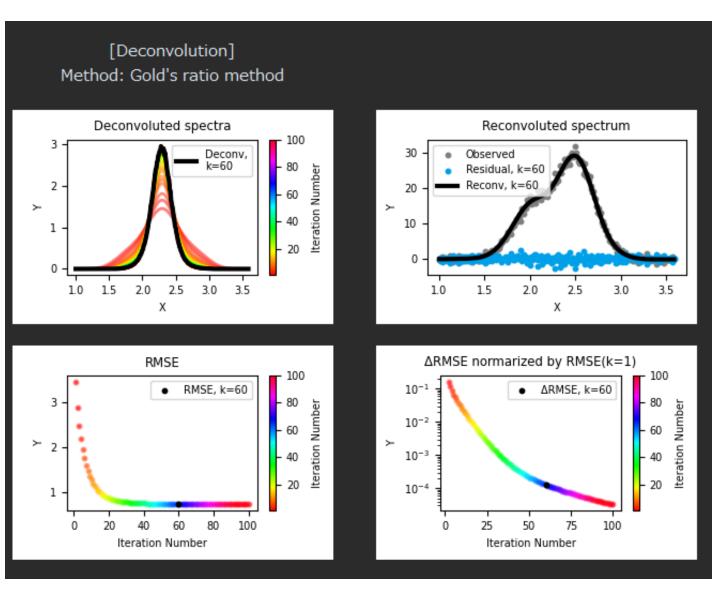


分解能が良いスペクトル FWHM~0.35 eVのGaussian function 2つの線形結合

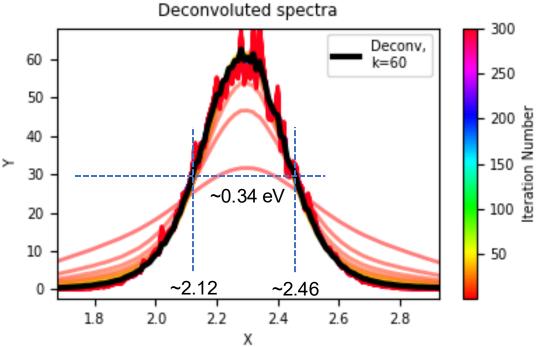
分解能が悪いスペクトル FWHM=0.49 eVのGaussian function 2つの線形結合

左のスペクトルが、装置関数 (or 散乱関数) s(x) によるブロードニングを受けて、右のスペクトルになったとして、s(x)をdeconvolutionで求められるかチェックした。

Result



Gold's ratio methodでiteration number=60のときの Spread function (dRMSE=10e-4のとき)



装置関数0.35 eVにほぼ一致→ OK! 横軸・縦軸の絶対値に意味はないので注意。

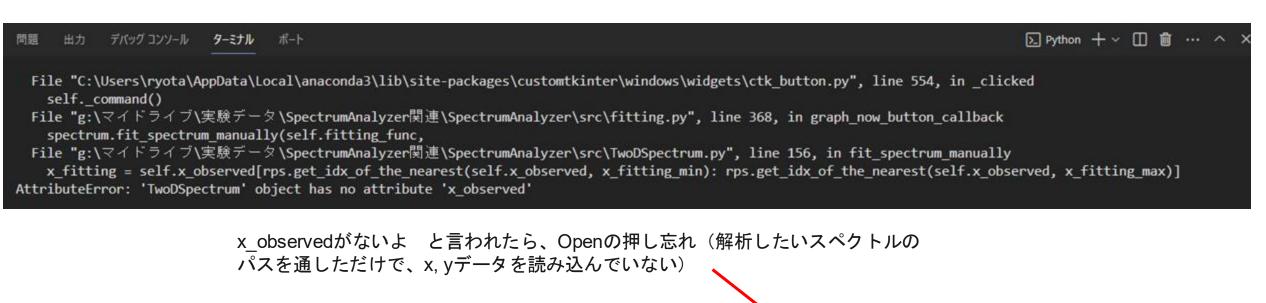
troubleshooting

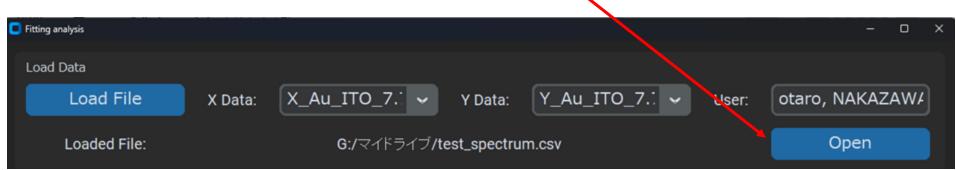
Csvファイルを開けない

PermissionError: [Errno 13] Permission denied: 'G:\\マイドライブ\\実験データ\\spectrumanalyzer_testdata\\fitting\\menzel2022fitting' PS G:\マイドライブ\実験データ\SpectrumAnalyzer関連\SpectrumAnalyzer2.4\src> []

PermissionErrorが出ている場合、csvファイルが開かれています。csvファイルが開かれているとpythonからアクセスできないようです。csvファイルを閉じてください。

1. Fitting analysisにて"Graph Now"を押しても何も起こらない





Openを押して、入力スペクトルがポップアップで出てきたらオッケー

2. Deconvolution analysisにて、 "Deconvolute"ボタンを押しても何も起こらない

```
Exception in Tkinter callback
Traceback (most recent call last):
File "C:\Users\ryota\AppData\Local\anaconda3\lib\tkinter\__init__.py", line 1921, in __call__
return self.func(*args)
File "C:\Users\ryota\AppData\Local\anaconda3\lib\site-packages\customtkinter\windows\widgets\ctk_button.py", line 554, in _clicked
self._command()
File "g:\マイドライブ\実験データ\SpectrumAnalyzer関連\SpectrumAnalyzer2.2\src\deconvolution.py", line 742, in deconvolute_button_callback
spectrum.deconvolute_spectrum(spectrum.x_bg, spectrum.i_ac, spectrum.s_cc, int(self.deconv_iteration_textbox.get()), x_rmse_min, x_rmse_max,
ValueError: invalid literal for int() with base 10: ''
```

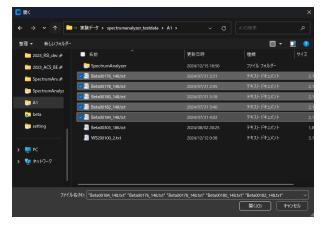
Iteration numberを記入していない、など。必要なパラメータを記入せよ。

ARPES image 解析

Data読み込み

使用した装置を指定してデータを読む。 このボタンを押すとfile explorerが出てくるので 装置から出力された生ファイルを読み込む。

複数のファイルを読み込むと、(測定条件が同じなら)それらのデータを平均化したデータが出力される。



File to be saved には保存されるデータの基本形が表示される。 MBS-A1の生データは

名前+測定番号 (5桁)+_+region番号+.txt である。

(例1) 単一ファイル Sample0001_12 を読み込んだ場合 出力ファイル: Sample 1 12

(例2) 複数ファイル Sample00001_3, Sample00002_101, Sample000010 14を読み込んだ場合

出力ファイルSample 1 3 10 14

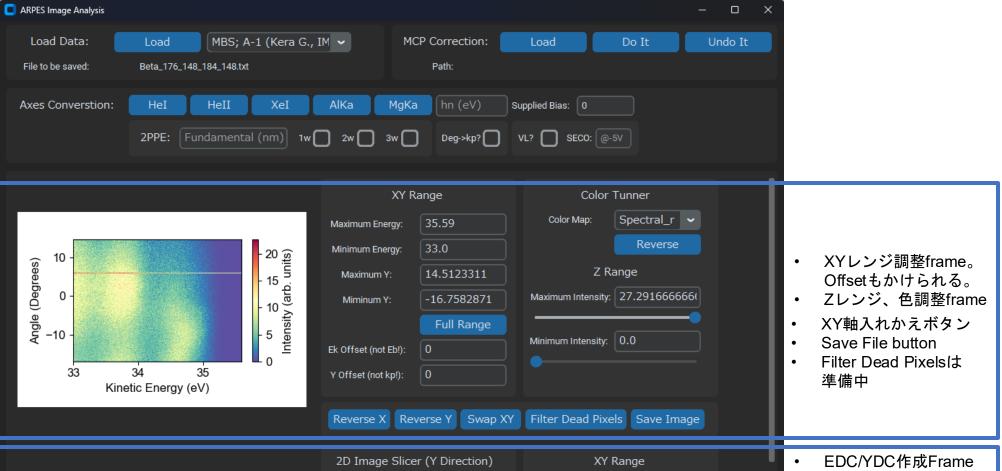
(FileName最小測定番号_最小測定番号のときのregion番号_ 最大測定番号 最大即位番号のときのregion番号)



データ 読み込み後

Entry BoxはEnter キーで実行される

積算された ARPES image



(切り出すXorY範囲を決

Plot表示するXY領域の

Range ButtonはXY全領

入力した定数バックグ

凡例表示/非表示 button

ラウンドを差し引く

Y軸: linear←→ log

Save File button

調整Frame。Full

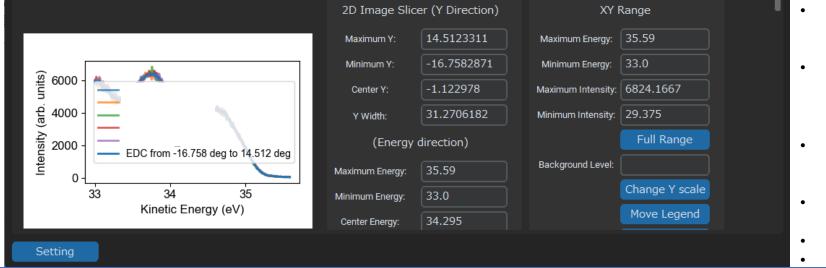
域を自動調整

entry box

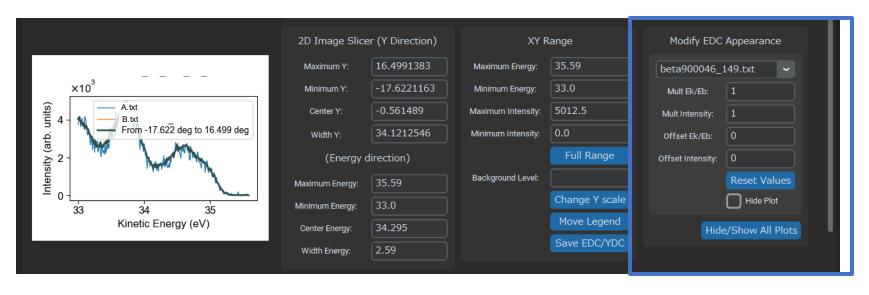
変更ボタン

める)

積算されたEDCと それぞれのファイルの EDC (データ読み込み時 のfigureはY方向全積分し たEDCカーブ)

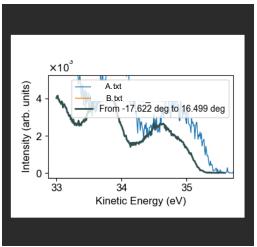


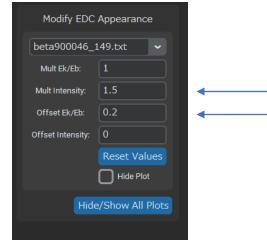
データ読み込み後 (EDCのviewer機能)



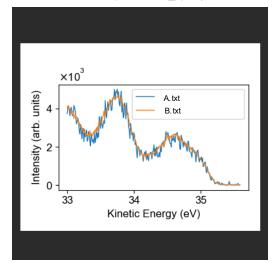
ここでEDCカーブのオフセットや定数倍、 プロットの表示/非表示が出来る。 あくまでもviewerとしての機能であり、 save dataには影響しない。 "Integrate X Modified Data"ボタンは 現在作成中。

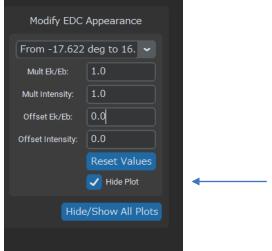
(例1) A.txt: Xを+0.2, Yを1.5倍





(例2) 平均EDCを非表示





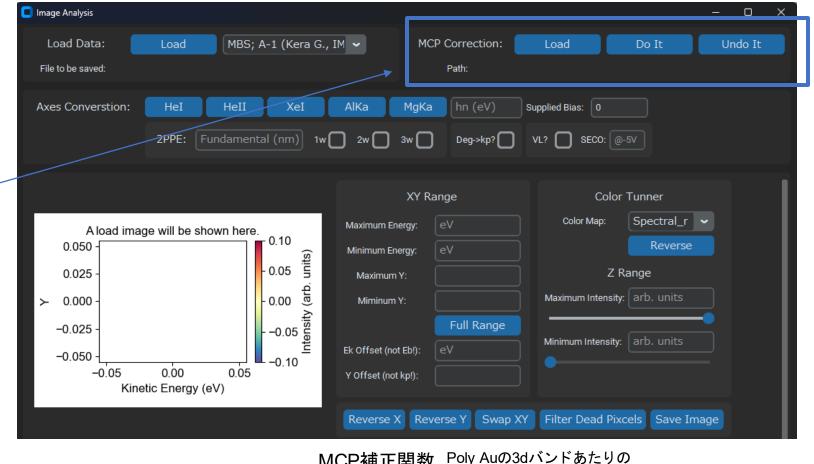
MCP補正

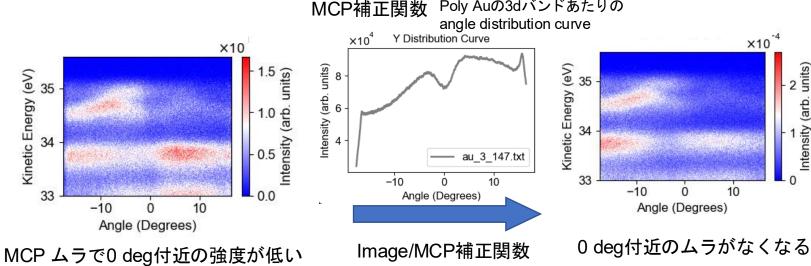
- 1. MCP補正用データ (分散がない領域でangle resolution modeの測定データ) を読み込む。 Y(Angle) distribution curveが表示されるので正しいか確認 (Energy方向に全積分することで pixel感度を反映した関数が生成される)。
- 2. Do It ボタンで前項でLoadしたDataにMCP補 正がかかる (前項Load Dataの強度/MCP補正 angle distribution curveが行われる)。
- 3. MCP補正を解除するときはUndo Itボタンを押す。

MCP補正/補正解除はY scaleが生データの時だけ実行できる。Y scaleが波数変換しているとMCP補正できない。

もしすでにAngleをInverse wave vector (kp) に変換してしまったときは、deg->kpのoffにしてEb変換を行い (Y scaleをkp->degに直す)、MCP補正を行う。

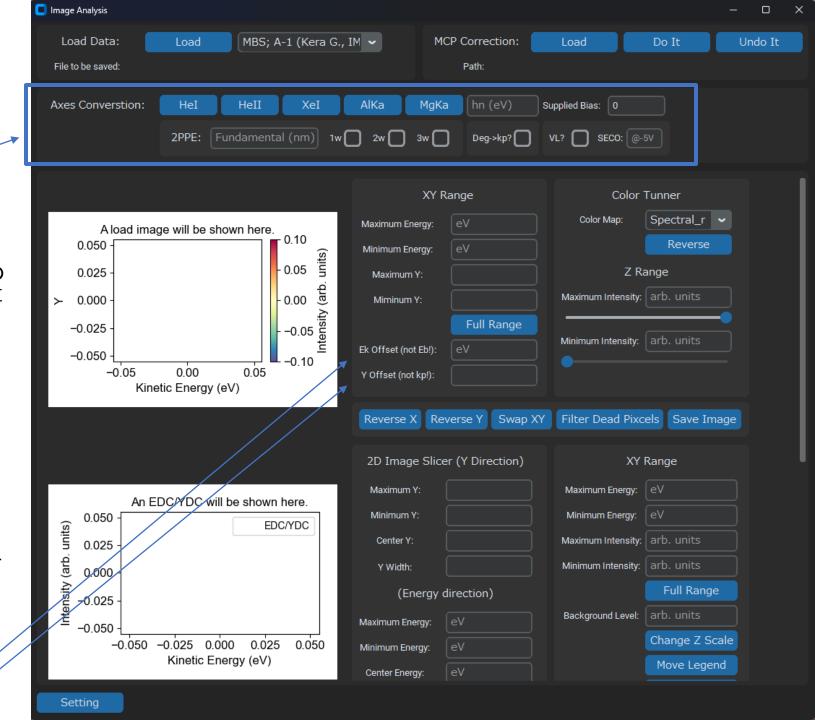
その後deg->kp をonにして、再度deg->kp変換を行えばよい。



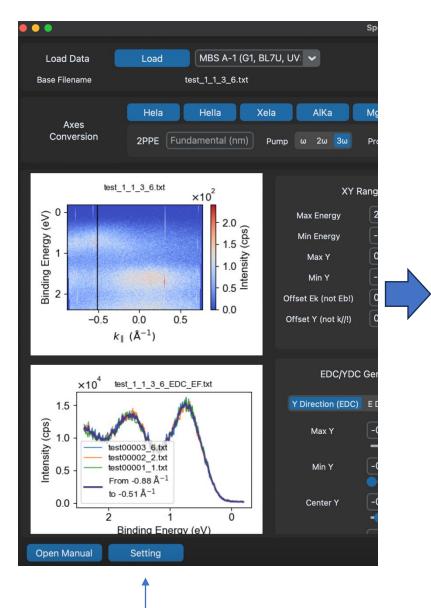


軸の変換1

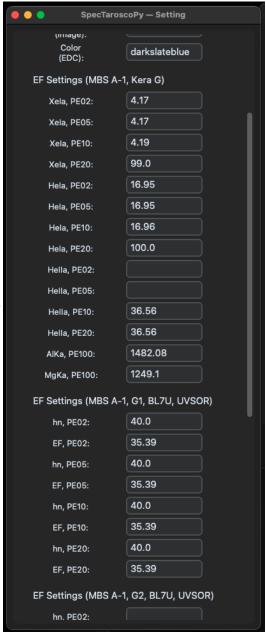
- Hel, Hell, Xel, AlKa, MgKaボタンはdefault値を参照 してEk→Eb変換を行う。
- フェルミ準位の運動エネルギーは
 src\\setting\\ARPES_image_setting.txtに記載されている基準値(次頁参照)を参照している。画面下部のSettingボタンで値を更新できる。
- "hn (eV)" Entry box は励起光エネルギー。ここに任意の値を入力してもよい。Setting記載の基準値との差分をとってフェルミ準位の運動エネルギーを計算し、Ek-->Eb変換する。Enter keyで実行される。詳細は次頁参照。
- "Ek@EF" はフェルミ準位の運動エネルギー。こちらにフェルミ準位の値を入力してEb変換してもよい。Enter keyで実行できる。
- 初期値0。試料に電圧を印加している場合は Supplied Biasに電圧 (V)を入力。引火していない場合は0と入力。
- 2PPEは作成中...。
- "Deg->kp" にチェック入れると角度を波数に変換し てくれる。
- VL?にチェックを入れると真空準位基準Ebに変換する。SECOの値が必要。なお、VL基準Ebに関しては動作チェックはしていない。
- 生データのX/Y軸をoffsetしてからEk->Eb, Deg->kp/ 変換したい場合は、下のOffset valueを先にかけて から軸変換すること。



軸の変換2



フェルミ準位の運動エネルギー



この値をフェルミ準位の運動エネルギーとして参照している。

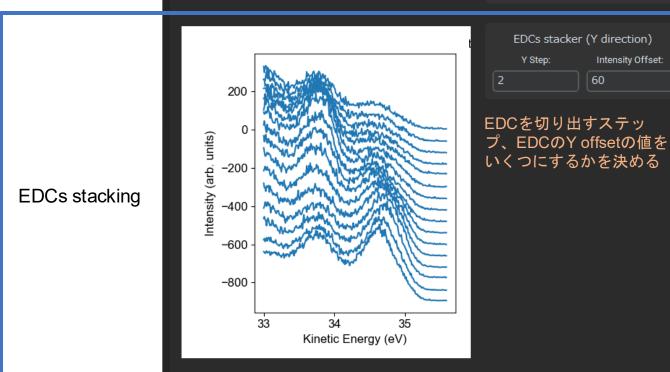
- ① Kera Gの場合、光源・Pass Energy (PE) ごとにフェルミ準位を設定する。
- ② UVSOR 7Uの場合、Grating (G1, G3)・PE ごとに、基準となる PhotonEnergy (hn) とフェルミ準位の運動エネルギー (EF) を設定する (全ページの基準値のこと)。 例) 左の基準値を使用した場合、
- G1, PE = 10 eV, hn = 30 eVの測定のフェルミ準位は 35.39 + (30 - 40) = 25.39 eV となる。
- ③基準値を入力したら、画面下部のSaveボタンを押す。 "SpecTaroscoPy – Setting", "SpecTaroscoPy – PESimage" を **再起動**する。

EDCs Stacking

Entry BoxはEnter キーで実行される



60





スクロールバーを下げる とEDCs stackingのフレー ムが出てくる

- EDC/YDC作成Frame (切り出す範囲を決め られる)
- XYレンジ調整Frame
- Y軸linear←→log変更 ボタン
- 凡例位置調整button
- Save File button

Second Derivative/Curvature Analysis (1Dのみ)

データの読み込みFrame

Loadボタンを押してデータを選択する。 データ形式はMBS-A1のtxtデータか SpectrumAnalyzerで作成したtxtデータ。 データの表示はImage or EDCs stackingのどちらか。

二次微分解析Frame

Smoothing方法とスムージングパラメータを入力する。 Y offsetsは二次微分スペクトルを stacking表示するときのY offset value。

RMSEチェックボックスはスムージング前後の平方根平均二乗誤差のwindow size依存性を計算する。 ImageでSG法のときのみ有効(20241216現在)。

Do Itで実行。Close Figuresで表示されたFiguresをすべて閉じる。 Peak Detect buttonは二次微分縦並 びスペクトルのとき、peakを自動検 出する機能。

